

# 文化服装学院 学校関係者評価委員会 報告書

---

文化服装学院 自己点検・評価委員会

平成 25 年 12 月 12 日

## 目 次

1. 報告書骨子
2. 文化服装学院自己点検・評価に対する総評
3. 重点評価項目への提言
  - 1) 中途退学者への対策
  - 2) 就職・キャリア教育への取り組み
  - 3) 学生募集対策
4. 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価委員会開催日程

## 1. 報告書骨子

学校関係者評価委員会（以下、当委員会）は、文化服装学院学校関係者評価委員会規程に基づき、平成 25 年 4 月 1 日に設置された。文化服装学院（以下、本学院）の自己点検・評価の結果について客観性と透明性を高めるとともに、学外の関係者から専門的な助言を得るため、外部評価を実施する機関として当委員会を組織した。当委員会は、本学院の自己点検・評価を資料として、自己点検・評価委員会の内部評価を参考にし、さらに関係教職員との具体的な意見交換等を通して、本学院の学校運営・教育活動について検証・評価及び助言を行うことを目的として実施している。当委員会委員は外部委員のみで構成され、本学院の教育理念・目標について理解し、人材育成等に精通した学外の関係者の中から学院長が選考し、委嘱している。委嘱された委員は下記のとおりである。

平成 25 年度は、平成 24 年度の自己点検・評価報告書を資料として、当委員会としての評価・助言を取りまとめ、本報告書を作成した。本報告書に記載した評価・助言は、具体的な事項であり、より本学院の発展に資するという考え方に則り、過度に要約することなく記載している。

本報告書の作成にあたり、当委員会の委員の方々には、お忙しいところご尽力いただき、改めて深く感謝申し上げます。

|      |                                                                     |
|------|---------------------------------------------------------------------|
| 委員長  | 徳岡敬也（株式会社トークス 代表取締役）                                                |
| 副委員長 | 芦川照和（SUN デザイン研究所 プロデューサー ・ 本学院卒業生）                                  |
| 委員   | 山内 誠（一般財団法人日本ファッション協会 企画事業部 部長）                                     |
| 委員   | 中村善春（(株) 織研新聞社 事業局部長 兼 業務局 本社業務部長<br>JFW-IFF/PLUG IN 事務局長 アッシュ編集室長） |
| 委員   | 澤田勘志（株式会社 MORI パーソネル・クリエイツ取締役<br>Tokyo Office マネージャー）               |
| 委員   | 川口輝裕（一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会 参事）                                    |

## 2. 文化服装学院自己点検・評価に対する総評

文化服装学院はその教育理念、人材育成像が明確に示されており、その目標へ向かい概ね的確な取り組みがなされている。

服作りを基本とした技術教育と、社会へ貢献し、社会的責任を果たすことのできる人材の教育に取り組んでいる点は十分に評価できる。

また、若者の気質の変化や修学歴の多様化、コミュニケーション能力の低下など社会が抱える問題を真摯に受け止め、日々学生指導に尽力していることがうかがえる。

今後はより一層文化服装学院としての個性と各課程及び学科の特色を明確に打ち出し、産業界との連携を強化し時代に即したカリキュラムの開発を進め、次世代のファッション業界を担う人材の育成に努めていただきたい。

## 3. 重点評価項目への提言

平成 24 年度の自己点検・評価において文化服装学院が重点項目として掲げている 3 項目について委員からの提言は以下の通りである。

### 1) 中途退学者への対策

#### [現状]

中途退学者の人数はここ数年徐々に減少傾向である。しかし、依然として 1 年次の中途退学者は上級生と比較すると突出して高くなっているのが現状である。中途退学の理由も様々であり、抜本的な対策を打ち出せずにいる。

#### [提言]

- (1) クラス担任制により、担任、副担任に学生の諸問題の対応が委ねられている事が多いが、学校全体での多重的な取り組みが必要である。
- (2) 中途退学となる理由のさらなる掘り下げ、丁寧な分析を行うことが急務である。  
また、中途退学理由を分類し、ターゲットを絞った対策を打ち出し取り組むことが望ましい。
- (3) 志願者に対しては丁寧かつ適切なガイダンスを行い、入学後は目的を見失わせない魅力ある授業を展開していくことが必要である。
- (4) カリキュラムの軽減化は決して望ましい対策ではなく、学生個々の習熟状況に合わせたクラス編成や転科などの細やかな対策の検討が必要である。

## 2) 就職・キャリア教育への取り組み

### [現状]

キャリア教育の導入から3年を経て、就職率は徐々に上昇している。しかしながら就職活動に積極的に取り組むことができない学生も少なくない。就業意識の向上を図り、就職率を高めることは本学院の重要課題の一つとしてとらえている。

### [提言]

- (1) 学生の偏ったブランド志向を是正させることが必用であろう。業界の体質として新卒者の採用より、中途での採用が活発であることを鑑み、自身のキャリアをスタートさせることの重要性を認識させ、就職へと導く。
- (2) 企業、業界が求める人材について、日々直接学生を指導する教員がよりよく把握し、支援を行うことが望ましい。また一方の考え方としては、ファッション業界に望まれる人材を育成するだけではなく、文化服装学院ならではの人材を育成することで、業界をリードし、形成していくという視点も重要である。
- (3) ファッション業界では製造分野の海外移転等から職場が減少していることも事実である。しかしファッション業界に限らず、様々な分野で「ファッション感覚」が求められてきている。文化服装学院で培ったその感覚を生かせる職場を確保し、学生に紹介していくことも必要である。
- (4) 日々学生指導にあたっている各教員が企業との結びつきを強くし、企業が求める人材と自身のクラスの学生の状況や能力をマッチングさせていく地道な取り組みこそが有効な対策となる。
- (5) 就職試験に合格するための「対策」はそれなりには有効である。しかし教育機関としてはそこに重きを置くことより、伸び代があり、協業できる人材を育成することが学校としては重要である。本人が持っている力を引き出し、導くことが学校が取り組むキャリア支援である。
- (6) 学生は「仕事の中身」が見えておらず、就業のイメージができていない。インターンシップ等をさらに活用し、現場を理解させることが重要である。

## 3) 学生募集対策

### [現状]

学生募集のための広報活動として、入学案内書等の印刷物や公式ウェブサイト、各種媒体での広告、SNS（ツイッター、フェイスブック）等を活用し、年間を通じて常に最新の情報を積極的に提供している。

また志願者との直接接触となる広報イベントとして月に1回程度、学校説明会、ファッションサマーセミナー、ファッションフェスティバル、文化祭などを実施しているほか、随時個別学校見学・入学相談の実施、地域別進学ガイダンス、高校内ガイダ

ンスへの参加を行っている。

[提言]

- (1) 文化服装学院の各種媒体における露出が減っている。自校の公式ウェブサイト以外に定期的に文化服装学院のビジョンが発信されているものを目にする機会が減少しているように感じるが、継続的にメッセージを発信していくことは大変重要である。
- (2) 様々なコラボレーション活動を行っているようだが、それらの各媒体への広報活動がなされていない。コラボレーション活動そのものは学生の学びの一つとして実りあるものにすることが最優先ではあるが、学校としてはその活動を広く社会へ発信し、社会貢献活動の実績を広報していく必要がある。
- (3) スマートフォンの普及により、個人がメディアを持つ時代となった。学生が発信者となり情報が共有されることによる影響は非常に大きい。学校がイベントを主催し、学生の参加を募るのではなく、学生が企画し主体となるイベントに学校が支援するという運営形態で情報発信をしていくことが、リーチの長い広報活動に繋がる。
- (4) SNS のさらなる活用。広告としてではなく、ファッションに関心の高い人の集いの場としていく。文化服装学院の学生だけではなく、ファッションショーを企画している高校や大学のサークル、異なる分野の専門学校の学生などがコミュニティを形成し、お互いの活動に賛同し、協力しあう中で、文化服装学院という学校の認知度を高めていく。

#### 4. 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価委員会の委員各位には、ご多忙の中委員をお引き受けくださり心より感謝申し上げます。文化服装学院では外部の方々から学校運営ならびに教育活動に関し具体的な評価を頂戴することは今回が初めてとなります。ファッション業界における製造部門、人事部門、メディア部門、プロデュース部門等の皆様から多岐にわたり、幅広い視野での提言を頂戴することができ、外部評価の重要性を痛感いたしました。また、日ごろの文化服装学院の教育活動に対し、賛同と高い評価いただき大変ありがたく存じます。

平成 24 年度文化服装学院自己点検・評価における重点項目といたしました、「中途退学者への対策」、「就職・キャリア教育への取り組み」、「学生募集対策」についてはすぐには結論、結果が出るものではございませんが、委員の皆様方の提言を真摯に受け止め、教職員一丸となりファッション業界を牽引する人材の育成に努めてまいります。

今後とも自己点検・評価ならびに学校関係者評価を継続し取り組んでまいりますので、皆様方のご協力を賜りたくお願い申し上げます。

ご尽力いただきました委員各位には改めて深く感謝申し上げます。

## 学校関係者評価委員会開催日程

### 第一回

平成 25 年 10 月 25 日（金）17：00～19：00

文化服装学院 B 館 4 階 B044 会議室

出席者（敬称略・順不同）

委員：徳岡敬也、芦川照和、山内誠、中村善春、澤田勘志、川口輝裕

オブザーバー：小杉早苗、工藤勝江、相原幸子、野中慶子、鈴木洋子、宮原勝一、  
酒井英実、横倉孝、須藤久栄、石崎克典、井手口和子、増田恵一、  
吉野真文、小林克也、古澤直子

配布資料：平成 24 年度文化服装学院自己点検・評価

同 内部委員による報告書

### 第二回

平成 25 年 12 月 12 日（木）17：00～19：00

文化服装学院 B 館 4 階 B043b 会議室

出席者（敬称略・順不同）

委員：徳岡敬也、芦川照和、山内誠、中村善春、澤田勘志、川口輝裕

オブザーバー：小杉早苗、工藤勝江、相原幸子、野中慶子、鈴木洋子、宮原勝一、  
酒井英実、横倉孝、須藤久栄、石崎克典、井手口和子、増田恵一、  
吉野真文、小林克也、古澤直子